

補足資料

試験問題評価委員会外部評価分科会の外部評価

大学入試センター試験は、「大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とした」試験として実施されている。このことに照らし、試験問題評価委員会は、本試験の試験問題について、以下の項目別（7項目）及び総合的観点から適切であったかを、枠内の評定値により4段階で評価した。

1 項目別評価

- (1) 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されている（出題範囲）
- (2) 単に知識だけではなく、思考力や応用力等を問う問題も含まれている（思考力）
- (3) 出題内容は、特定の分野・領域や特定の教科書に偏っていない（出題内容）
- (4) 試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である（問題構成）
- (5) 文章表現・用語は適切である（表現・用語）
- (6) 問題の難易度は適正である（難易度）
- (7) 得点のちらばりは適正である（得点のちらばり）

2 総合評価

1の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切である

(評定値)

- 4 当てはまる
- 3 ある程度当てはまる
- 2 あまり当てはまらない
- 1 当てはまらない

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、「国語総合」の教科書で扱われる程度の文章から出題されており、適切であった。
(2) 思考力	4	基礎・基本を重視しながらも、論理的思考力や判断力を問う設問が多く見られた。今後も同様の作問を期待する。
(3) 出題内容	4	授業において日々積み重ねてきた学習の成果が現れるよう、多様な分野や領域から幅広く出題されていた。
(4) 問題構成	4	各設問の視点が多様であり、適切であった。本文を俯瞰的に読み取る能力を測る問題が増加するとともに、解答時間についての配慮が見られた。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は素材文、選択肢群ともに適切であった。
(6) 難易度	4	全体の平均点は119.33点と昨年度よりも2.22点下降したものの、難易度は適正である。次年度は大学入学共通テストの初年度となるが、高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、「国語総合」の内容として妥当な難易度となることを期待する。
(7) 得点のちらばり	4	受験者の学力をよく識別する設問も多く見られ、得点のちらばりは適正であったと思われる。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	1の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

科目名	世界史A
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	やや細かな語句が見られるものの、全体として高等学校学習指導要領及び教科書の内容に準拠した適切な出題範囲であった。また、現代の世界に関する出題もあり、科目の目標を踏まえた出題であった。
(2) 思考力	3	昨年度よりも、地図・グラフ・年表を使用した問題や、複数の事項（語句）の組合せ・並べ替えの選択の問題が減少し、一方で事項（語句）選択の問題が増加しており、全体としてやや易化している。歴史的思考力を問うためには歴史的事象を多面的・多角的に考察するような設問の工夫・改善が望まれる。
(3) 出題内容	4	昨年度よりも古代史・中世史が増加したが、近・現代史中心の出題は変わらず科目の特性に沿った出題であった。また、政治史からの出題が減少し、文化史と複数分野混在の問題が増加した。地域ではヨーロッパ・北アメリカからの出題が減少し、複数地域混在の問題が増加しており、出題者の目配りが感じられた。
(4) 問題構成	4	出題数は昨年度より1問減の32問であったが、大問4題、中間10題の構成を踏襲し、本年度も多様な観点から出題されていた。現在の問題構成が適切であると考えられる。語句選択は絵画を参照して答えるもの、リード文の空欄について答えるものというように、出題に工夫が見られた。他より配点の高い設問は、資料を基に考察させており、適切であった。
(5) 表現・用語	4	全体として受験者にとって、理解可能な表現・用語が使用されており適切であった。
(6) 難易度	4	科目の目標に沿いながら、多くの教科書に掲載されている内容を問う出題となっていた。教科書を用いた授業中心の学習で判断することが容易となるよう配慮されており、適切であった。
(7) 得点のちらばり	4	正解以外の選択肢に工夫がなされ、最近では最も高い平均点となった。度数分布では平均点よりも低い層にピークが見られるが、受験者層や難易度及び得点上位層の数から、問題はないと考える。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	現代の世界に関わる語句が多く取り上げられ、「世界史A」の特色がよく感じられる問題であった。出題の範囲や内容、構成はおおむね適切であり、難解な表現・用語もなかった。問い方も工夫されており、基礎的な学習の達成度を判定するための試験として適切な問題であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に沿い、教科書に表記されている内容から適切に出題されていた。
(2) 思考力	2	リード文とリード文に関連する絵・写真は、いずれも歴史の意義の発見につながるものであるが、依然として設問に十分に活用されているとは言い難い。また、地図・グラフ・年表などの資料を使用した問題や6択問題も出題されたが、思考力・判断力を評価する出題方式などの工夫がより一層求められる。
(3) 出題内容	3	基本的事項を中心に出题されており、教科書の内容で十分に対応可能であった。 地域別では、依然として「西欧・北米」からの出題が多いものの、各地域から出題されていた。また、例年と比べて分野別では「文化史」、時代別では「戦後史」の出題が多くなり、バランスに配慮した出題内容となっていた。
(4) 問題構成	4	設問数、配点については適切であった。設問形式は、文章正誤問題が多いが、複数事項の選択や6択問題、地図・グラフ・年表を用いた問題など工夫されていた。
(5) 表現・用語	3	一部の出題で、正誤の判断が難しいとされたものもあったが、受験者に対して文章表現・用語はおおむね適切であり、十分理解できるものであった。
(6) 難易度	4	大学入学者の選抜を行う試験問題として、難易度は適切であった。出題分野では、受験者になじみの薄い「文化史」や「戦後史」が増加したものの、出題地域、時代のバランスから見ても妥当と言える。
(7) 得点のちらばり	4	全受験者のうち、7割から8割台の得点者数が最も多く、基礎基本を丁寧に学習した成果が反映された結果であり、妥当と言える。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	3	高等学校学習指導要領の趣旨を反映した内容であり、出題範囲のバランス、難易度にも配慮がなされていた。「大学入学共通テスト」では、興味深いリード文や史資料の読み取りを通して「歴史的思考力」を評価する出題が増えることを期待したい。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	19世紀半ばから1990年代までの出題であり、扱われた内容も高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されていた。
(2) 思考力	4	史料文や統計資料の読解力、地理的思考力が求められるなどよく工夫されていた。国際的視野を広げたり、現代の諸課題を意識させるような出題がなされていた。また、複数の項目や分野にまたがる出題も多く、歴史的思考力や応用力を問う良問が多かった。
(3) 出題内容	4	項目別区分・分野別区分ともにバランス良く出題されていた。
(4) 問題構成	4	設問数、設問形式は適切である。配点では、今年度も4点問題が4題出題され、そのうち3題が「史料・グラフ・地図・図版等」であった。 様々な問題形式でバランス良く問われていた。
(5) 表現・用語	4	リード文や設問文、史料を読み解けば分かるようにキーワードが適切に配置され、解答を通じて歴史的思考力・判断力を養えるようになっていた。また、リード文や設問文には受験者へのメッセージを感じるものも見られた。
(6) 難易度	4	難易度が高くなりすぎないように配慮されていた。標準問題が多く、受験者の取組が反映されやすいように問題が作成されていた。「日本史A」が標準2単位であることを踏まえ、今後も難易度には御配慮いただきたい。
(7) 得点のちらばり	3	低得点者が多いものの、「日本史A」の受験者の実態を考えると、おおむね適正な分布であると考えられる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	受験者の「思考力・判断力・応用力」を問う良問が多く、問題作成者の意図と工夫が表現されていたと評価する。難易度を抑えながらも、設問を通じて、「史料・グラフ・地図・図版等」の解釈などを追体験させるような出題や現代の諸課題に着目させるような出題には好感が持てる。来年度からの「大学入学共通テスト」では、新学習指導要領も見据え「思考力・判断力・応用力」を問う問題が増加すると予想されるが、「日本史A」の標準単位数や受験者の実態を踏まえた出題をお願いしたい。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	学習指導要領に準拠し、教科書の内容や授業実態に即した内容が問われていた。
(2) 思考力	4	多様な資史料の読み取りと知識を組み合わせる歴史を考察させるなど、出題分野や設問形式を問わず、歴史的思考力を問う工夫がなされていた。
(3) 出題内容	3	基本的な知識を問う標準的な内容がほとんどであった。各分野がバランス良く取り扱われており、各分野を相互に関連付けて考察させていた。時代別に関しては、現代史の出題割合を増加させてほしい。
(4) 問題構成	4	設問数、配点ともに適切であった。今年度も第1問に時代を区切らないテーマ史の問題の配点が維持された。大きな時間軸の中で歴史事象の展開を判断させる出題者の意図は大いに評価できる。今後も継続していただきたい。
(5) 表現・用語	4	今年度も用語の表記について、特に難しい表現も見られず、また、語句の併記など多様な教科書で学ぶ受験者への配慮が見られた。史料についても脚注等を丁寧に読むことで判断できるよう配慮されていた。今後も継続していただきたい。
(6) 難易度	4	昨年度と比較して、平均点は1.91点上昇し、平均点は65.45点であった。やや難易度の高い問題もあったが、おおむね標準的な難易度であった。「基本的な事項・事柄」を問う出題が主体であり、基本的な知識・理解を重視するという姿勢は今年度も維持されている。
(7) 得点のちらばり	4	得点がほぼ正規分布を示していたことから、適正であったと考える。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	例年どおり、学習指導要領の趣旨に基づいた出題であり、基礎・基本事項の定着度に加え、理解力や歴史的思考力を測る良問であり、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。次年度以降も基礎的な学力を判定する方針を継続していただきたい。

科目名	地理A
-----	-----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	現行の学習指導要領の目標や内容に沿った範囲となっている。
(2) 思考力	3	図表を総合的に考察させる問いもあるが、全ての図表や文を使わなくても解けてしまうものや、知識そのものを問うものが多い印象である。
(3) 出題内容	3	おおむね各分野・領域をカバーしている。ただし、内容が近似している問いも見られる。
(4) 問題構成	4	適切である。
(5) 表現・用語	3	おおむね適切である。ただし、文章表現や用語に誤解を招く問もあり、受験者が迷ったと推測される。
(6) 難易度	4	適正である。
(7) 得点のちらばり	4	適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	「地理A」の範囲を踏まえ、バランス良く出題されている。地図を活用した問いや写真等を活用した問いにはやや課題はあるが、丁寧に熟考されて作られている。単純に知識だけを問うのではなく、身近な題材を基にした資料から思考を促す問いも見られ、高校の授業改善につながる内容となっている。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	3	例年と出題される範囲に大きな変更はない。今年度の六つの大問構成により、学習指導要領の範囲をおおむね網羅している。出題される地域は、昨年度以上にバランスの取れた出題であった。幅広く出題されているため、小問ごとのつながりが少ない箇所が多い。
(2) 思考力	4	文章のみで出題されている問題が5問に対して、地図を読み取る問題が19問、図表を判読する問題が23問あり、思考力を問うことに重点が置かれ評価できる。しかし、解答するのに時間を有する図表もあり、解答時間にも配慮する必要がある。
(3) 出題内容	4	使用されている地図や図表が一部の教科書から多く出題されているように感じられるが、出題分野には偏りはない。自然災害や再生可能エネルギー、移民、BRICSなど近年の主要な課題・話題となる内容も取り上げられており、工夫された良問が多い。
(4) 問題構成	4	昨年と同様、大問6題、小問が35問で構成されている。地図や図表、写真などを多角的に思考・判断しながら「地理的な見方や考え方」を問う問題で構成され評価できる。しかし、思考・判断に時間を必要とする問題への配点を検討する必要がある。
(5) 表現・用語	3	問題の文章や用語は、おおむね適切である。大問の構成や設問の趣旨を説明している箇所もあり、取り組みやすい。一部、問題文の注釈が受験者には理解しにくい表現がある。また、図表内の資料も受験者が思考するのに困惑するものもある。
(6) 難易度	4	高等学校の学習で扱われる内容を問う問題が多く、難易度は適切である。地図と図表、地図と画像などから思考・判断する問題が多い。また基礎基本を問う知識問題もあり、バランスの取れた「地理的な見方や考え方」を測る問題で構成されている。
(7) 得点のちらばり	3	得点分布は、正規分布であり、おおむね適切である。基礎的な知識と地理的な思考力・判断力が定着している受験者は加点できる。ただし、他の地理歴史B科目と比較し、標準偏差が小さい傾向は、今年度も続いた。受験者の学力の高さと得点との相関が現れるような出題を要望したい。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。単純に知識だけを問う正誤問題などは減少し、地図・図表・画像から思考・判断する問題が多く、「地理的な見方や考え方」を試験問題全体として問うている構成で良好である。次年度は、大学入試センター試験の流れを継承した大学入学共通テストへのソフトランディングをお願いしたい。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	現行の高等学校学習指導要領の範囲から適切に出題されている。
(2) 思考力	3	思考力や応用力等を問う問題が適切に含まれている。今後も思考力・判断力・応用力、加えてグラフ・統計などの分析力・活用能力を問う問題の更なる工夫が望まれる。思考力・判断力・応用力を問うものが増加することは良いが、深い理解や高い専門性を求めすぎない工夫が必要であろう。
(3) 出題内容	4	現行の高等学校学習指導要領に示された科目の分野・領域を踏まえた出題内容であり、おおむね偏りなく出題された。一部頻出度の低い内容が含まれていたことで、受験者は戸惑ったのではないか。
(4) 問題構成	3	大問数、小問数とも昨年度と同様であり、適切である。配点、設問形式も適切である。リード文を全ての大問に付し、「現代社会」という科目の性格を意識した上で、メッセージ性の強い切り口を示した点は評価できるが、小問との関連付けは少なかったと感じた。また、現代社会の科目の特性を考慮し、政治・経済の内容との差別化を図るため、写真や地図などを用いた設問形式も望まれる。
(5) 表現・用語	4	適切なものが大半であった。教科書によって用語の表記が異なるものについては、併記するなどの工夫が望まれる。
(6) 難易度	4	全体としては基礎的・基本的な知識を問う内容が多く、授業で扱う内容と時事的事象も含めた知識・理解で得点でき、難易度は全体として適正である。一部難度の極端に高い問題が出題されているのは、問題作成部会が意図していたものなのかは疑問が残るところである。
(7) 得点のちらばり	4	ほぼ正規分布であり、適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	現行の高等学校学習指導要領に準拠し、教科・科目の目標や指導上の留意点などを踏まえ、基礎的・基本的な知識から思考力・判断力を問う問題まで偏りなく出題され、大学入試センターの問題として適切である。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	おおむね高等学校学習指導要領の範囲内からの出題であるが、一部あまり取り扱われない内容や見慣れない人名を挙げて問うなど、受験者を困惑させる設問もあった。
(2) 思考力	4	資料やグラフを読み取る設問など、単純に知識を問うだけでなく、思考力や判断力を問う問題が見られた。
(3) 出題内容	3	1、3、13、15、22など、細かい事項に踏み込んだ設問が見られた。また、24、25など教科書では名前が挙げられているだけの人物を選択肢にして正誤を判断させる設問なども見られた。
(4) 問題構成	4	設問数が1問増えたものの、標準的な難易度の設問が多く、配点も適切であった。ただし、他の公民科各科目に比べ全体的に読むべき文章量が多かった。
(5) 表現・用語	4	表現・用語ともに適切であった。
(6) 難易度	3	バランスが取れた出題で、全体として妥当な難易度であった。一部大学の専門教育で取り扱うべき事項や人物に言及している設問があり、受験者にとっては判断に苦しむ内容が含まれていた。
(7) 得点のちらばり	4	適正であった。受験者の学習成果が素直に得点に反映されていたものと思われる。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	基本的に高等学校学習指導要領の内容や教科書の記述を踏まえ、工夫された問題であった。問題の難易度や平均点は適正であったと評価できる。新しい大学入学共通テストにおいては、基礎的・基本的な知識を手掛かりに、資料を適切に活用して思考することにより正解を導き出せる良問の作成をお願いしたい。また、受験者の地道な努力が報われるよう、より一層の配慮をお願いしたい。併せて、今般が最後となるセンター試験「倫理」の出題形式についても、一つの完成形が示されていることから、大学入学共通テストにおいてもその遺産が活用されることを切望する。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	全ての問題は、高等学校学習指導要領の範囲内から出題されている。
(2) 思考力	4	基礎・基本的な知識を基に思考力や応用力を問う問題や、資料やグラフ・図を用いて、読解力や分析力を問う問題が扱われるなど、工夫・改善が見られた。
(3) 出題内容	4	昨年度同様の大問4問であった。大問では政治分野並びに経済分野の融合問題が2問、政治分野、経済分野は、それぞれ1問ずつ出題されている。また、小問では政治分野16問、経済分野18問であり、バランス良く出題されている。
(4) 問題構成	4	試験問題の構成は適切である。昨年度同様の34問だった。リード文も充実しており、思考力や資料の読み取りを要する問題も多く出題されているため、解答時間に応じた問題数であると思われる。分野における内訳は、政治分野が16問48点、経済分野が18問52点であり、バランス良く構成されている。設問形式について、7択以上の設問が昨年度7問から5問に減少している。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適切であったと考えられる。
(6) 難易度	4	問題の難易度は適正である。基礎レベルと応用レベルにおける問題配分及び配点については、基礎レベル28問82点、応用レベル6問18点であった。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	設問は、基礎・基本的な知識を問うものを中心とするだけでなく、思考力や判断力を問う出題や読解力や知識を活用した問題など多様な観点からの出題形式となっており、工夫・改善が見られる。以上の観点を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の問題として適切である。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	「倫理」分野については、おおむね高等学校学習指導要領の範囲内からの出題であるが、一部あまり取り扱われない内容や見慣れない人名を挙げて問うなど、受験者を困惑させる設問もあった。「政治・経済」分野については、全ての問題が高等学校学習指導要領の範囲内から出題されている。
(2) 思考力	4	「倫理」分野については、資料やグラフを読み取る設問など、単純に知識を問うだけでなく、思考力や判断力を問う問題が見られた。「政治・経済」分野については、基礎的・基本的な知識を基に思考力や応用力を問う問題や、資料、グラフや図表を読み取る問題が出題されるなど読解力や分析力を問う設問が見られ、工夫や改善がうかがえた。
(3) 出題内容	4	昨年度同様、大問6問のうち、「倫理」分野と「政治・経済」分野が3問ずつ出題された。両分野とも全体からバランス良く出題されていた。
(4) 問題構成	4	設問数は、「倫理」分野で昨年度から1問増えて19問、「政治・経済」分野は昨年同様18問、合計37問で配点は50点ずつであった。「倫理」分野については、設問数が1問増えたものの、標準的な難易度の設問が多く、配点も適切であった。ただし、「倫理」単体の試験問題と同様に、他の公民科各科目に比べ全体的に読むべき文章量が多かった。「政治・経済」分野については、試験問題の構成は適切である。昨年度同様の18問であった。リード文も充実しており、思考力や資料の読み取りを要する問題も出題され、解答時間に応じた問題数であった。
(5) 表現・用語	4	「倫理」分野については、表現・用語ともに適切であった。「政治・経済」分野についても、文章表現・用語は適切であったと考えられる。
(6) 難易度	4	「倫理」分野については、バランスが取れた出題で、全体として適切な難易度であった。一部大学の専門教育で取り扱うべき事項や人物に言及している設問があり、受験者にとっては判断に苦しみ内容が含まれていた。「政治・経済」分野については、問題の難易度は適正である。
(7) 得点のちらばり	4	適正であった。受験者の学習成果が素直に得点に反映されていたものと思われる。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	「倫理」分野については、基本的に高等学校学習指導要領の内容や教科書の記述を踏まえ、工夫された問題であった。問題の難易度や平均点は適正であったと評価できる。大学入学共通テストにおいては、基礎的・基本的な知識を手掛かりに、資料を適切に活用して思考することにより正解を導き出せる良問の作成をお願いしたい。また、受験者の地道な努力が報われるよう、より一層の配慮をお願いしたい。併せて、今般が最後となるセンター試験「倫理」の出題形式についても、一つの完成形が示されていることから、共通テストにおいてもその遺産が活用されることを切望する。「政治・経済」分野については、設問は、基礎的・基本的な知識を問うものだけではなく、思考力や判断力を問う問題など、多様な観点からの出題となっており、工夫・改善が見られた。

科目名	数学 I
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に定める範囲内での出題であった。
(2) 思考力	4	第3問(3) (数学的な見方・考え方)、第4問(5) (論理的に推論する力) など、思考力を問う問題があり、適切であった。
(3) 出題内容	4	特定の分野や内容に偏ることなく、出題されていた。
(4) 問題構成	3	設問数、配点、設問形式などはおおむね適切であった。 分量については、第4問(1)など目新しく時間がかかるものがあり、やや多かった。
(5) 表現・用語	4	問題の文章表現・用語に関して、適切であった。
(6) 難易度	4	学習の達成度を正しく評価できる出題であり、適正であった。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	以上の観点を踏まえて、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に定める範囲内での出題であった。
(2) 思考力	4	第2問〔1〕(図を基に的確かつ能率的に処理する力)、第5問(図形の特徴を把握する総合的な力)など、思考力を問う問題があり、適切であった。
(3) 出題内容	4	特定の分野や内容に偏ることなく、出題されていた。
(4) 問題構成	3	設問数、配点、設問形式などはおおむね適切であり、「二次関数」と「図形と計量」の配点に関しては改善された。分量については、第2問〔2〕(1)、第3問〔1〕など、目新しい形式や読解力を要する問題が複数あり、全体としてやや多かった。
(5) 表現・用語	4	問題の文章表現・用語に関して、適切であった。
(6) 難易度	4	学習の達成度を正しく評価できる出題であり、適正であった。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	3	以上の観点を踏まえて、大学入試センター試験の試験問題としておおむね適切であった。分量については、全体的なバランスを考慮した作問をお願いしたい。

科目名	数学Ⅱ
-----	-----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されていた。
(2) 思考力	4	数学的な思考力や応用力等を問う問題が適切に含まれていた。特に、不等式を満たす最大の整数を求める問題はグラフを活用し判断させる良問であった。
(3) 出題内容	4	全範囲から適切に出題されていた。
(4) 問題構成	4	試験問題の設問数、配点、設問形式は、適切であった。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。
(6) 難易度	4	問題の難易度は適正であった。基礎的な事項の理解を問う問題と、焦点化した問題の解決における数学的な思考力・計算力等を問う問題がバランス良く出題されていた。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	以上の観点を踏まえて、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されていた。
(2) 思考力	4	数学的な思考力や応用力等を問う問題が適切に含まれていた。特に、不等式を満たす最大の整数を求める問題はグラフを活用し判断させる良問であった。
(3) 出題内容	4	全範囲から適切に出題されていた。
(4) 問題構成	4	試験問題の設問数、配点、設問形式は、適切であった。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。
(6) 難易度	4	問題の難易度は適正であった。基礎的な事項の理解を問う問題と、焦点化した問題の解決における数学的な思考力・計算力等を問う問題がバランス良く出題されていた。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	以上の観点を踏まえて、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されている。
(2) 思考力	4	第1問には知識・理解を問う問題を多く配置し、第2問と第3問には思考力・応用力を問う問題が適切に含まれている。全体のバランスが取れている。
(3) 出題内容	4	特定の分野・領域や特定の教科書に偏っておらず適切である。
(4) 問題構成	3	基礎的内容の出題と応用的内容の出題でバランス良く構成されている。一方、計算に手間が掛かり、やや解答時間に不足が生じている傾向が見受けられる。設問数、配点、設問形式等試験問題の構成は適切である。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は、教科書の一般的な表現を使用しており、適切である。
(6) 難易度	4	平均点は昨年度よりも下がったものの、難易度は標準的であり、適正である。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりはおおむね正規分布に近い形を示しており、適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	上記の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切である。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲から適切に出題されている。
(2) 思考力	4	科目特性や難易度、試験時間の配分等を踏まえて、思考力や応用力等を問う問題が適切に含まれている。
(3) 出題内容	4	特定の分野・領域や特定の教科書におおむね偏っていない。
(4) 問題構成	4	設問数、配点、設問形式は適切であった。
(5) 表現・用語	3	文章表現・用語は適切であった。文章だけでなく図を示すことで、受験者が考えやすくなるような配慮が多く見られた。第3問では、変数名の表記でばらつきが見られた。受験者が戸惑わないように配慮をお願いしたい。
(6) 難易度	4	平均点は6割を超えており、また選択問題の第3問と第4問の難易度の差もかなり小さくなっていることから、適切であった。
(7) 得点のちらばり	4	受験者の実態を考えると、おおむね適正な分布であった。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	以上の観点を踏まえて、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

科目名	物理基礎
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	3	高等学校学習指導要領の範囲内からおおむね適切に出題されている。ただし、一部の問題において、教科書で「発展的な内容」として扱われている式を使う問題がある。
(2) 思考力	4	基礎的事項の理解の程度を問う問題に加えて、思考力や応用力等を問う問題がバランス良く含まれている。公式の暗記だけでは対応できない問題や、複数の考え方を論理的に組み合わせる問題がある。ただし、探究を進める過程についての問題は出題されていないため、そのような出題が望まれる。
(3) 出題内容	4	試験時間や問題数に配慮しつつ、高等学校学習指導要領を踏まえた幅広い分野・領域から出題されており、特定の分野・領域に偏っていない。また、使用教科書による偏りもない。
(4) 問題構成	4	試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である。組合せ問題における部分点についても適切に設定されている。
(5) 表現・用語	3	文章表現・用語・図はおおむね適切であり、受験者が理解できなかったり、誤解したりするものはない。ただし、一部の文章表現と図については検討の余地がある。
(6) 難易度	4	問題の難易度は適正である。基礎的、標準的な問題を中心に応用的な問題が適度に出題されている。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であり、選抜試験に資するものである。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とした大学入試センター試験の試験として適切である。

科目名	物理
-----	----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	難問奇問の出題を排除した良問の出題が多く、高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されている。
(2) 思考力	4	単に知識だけではなく、思考力や応用力等を問う問題が多く見られ、高等学校における学習の達成の程度を見るのにふさわしい問題だと考える。
(3) 出題内容	4	特定の分野・領域や特定の教科書に偏っていない。物理的な思考を問う問題などバランス良く配置され、新元素ニホニウムに関する新しい話題を取り扱うなど、工夫された出題も見られた。
(4) 問題構成	4	試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である。問1が問2を解くための誘導的な出題も見られ、問題を段階的に考える構成となっており評価できる。
(5) 表現・用語	3	文章表現・用語はおおむね適切である。ただし、問題文は長文の傾向がある。第3問の問4に関する訂正では $(2d/\lambda)$ が何か特別な意味を持つと考えた受験者もいたのではないかと考える。
(6) 難易度	4	問題の難易度は適正である。標準的な問題を中心に、基本的な問題と応用問題がバランス良く出題されている。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適切なものとなっている。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	丁寧に文章を読み、そこから正しく物理現象をイメージし、出題者の出題意図をくみ取り、単なる暗記では解くことができない思考力を試される問題が多く見られた。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に準拠し、教科書に記載されている内容を素直に問う問題が多く、学習内容の達成度を確認するための適切な問題となっている。
(2) 思考力	4	思考力を問う問題は、解答数15のうち5題出題された。「化学基礎」という科目の性質と限られた解答時間を考慮するとバランス良く出題され、適切である。
(3) 出題内容	3	化学と人間生活・物質の構成・物質の変化の各分野からバランス良く出題された。身の回りの物質と化学を結び付ける出題は、化学に対する興味・関心を高める上でも重要な意味をもつので、今後も続けていただきたい。ただし、物質の種類や金属と酸の反応など、教科書によって取扱いが異なる場合もあり、留意をお願いしたい。また、化学は「実験・観察」を基にして成り立つ学問であり、その結果を「図表・グラフ」で表すこともよく行われている。実験の重要性を教育現場で意識させる観点やその分析を通じて科学的な見方・考え方を養う観点からも意義が大きく、引き続き出題を検討してほしい。
(4) 問題構成	4	小問数13、平均選択肢数5.15であった。「複数組合せ問題」が1題出題されたが、関連性のあるものなので特に問題ないと判断する。今後も配慮をお願いしたい。
(5) 表現・用語	4	問題文・条件を簡潔にし、平易な表現となるように工夫されており、作題者の配慮が見られる。受験者に分かりやすい表現や用語の使用を引き続きお願いしたい。
(6) 難易度	4	基本的問題が9問、標準的問題が6問出題され、発展的問題の出題はなかった。計算問題は数値が工夫されており、科学的な内容の理解度の評価に重点を置く意味で、引き続き配慮をお願いしたい。今年度は平均点が28.20点とおおむね得点率60%となっており、難易度は適正であった。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や内容は学習指導要領の範囲内で、「化学基礎」の本質に対してできるだけ純粋な問いかけをしようとしている作題者の出題の意図・狙いは十分に感じとることができた。高等学校における「化学基礎」の基礎的な学習の達成度を見るにふさわしい、工夫された出題であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に準拠し、教科書に記載されている内容を問う問題が多く、学習内容の達成度を確保するための適切な問題となっている。
(2) 思考力	4	大問ごとにバランス良く出題されており、適切であったと考える。教科書の学習内容を基に、図表やグラフを用いた問題や、目新しい単位を用いた問題など、思考力を問う内容となるように工夫されていた。
(3) 出題内容	4	例年どおり大問6問（必答5、選択1）の構成であり、特定の分野・領域、教科書への偏りはなく、バランス良く出題されていた。思考力を問う問題が増加したことで、解答に時間を要する受験者が多かったと思われる。解答時間などを考慮して負担が増えすぎないように配慮をお願いしたい。
(4) 問題構成	4	小問数25（必答23、選択2）、解答数32（必答30、選択2）であり解答数が昨年度より3増加した。大問内の小問数等、昨年度同様バランスが取れていた。
(5) 表現・用語	4	ほとんどの問題において、問題文や選択肢の表現については適切な用語や表現が使われていた。
(6) 難易度	3	昨年度に比べて計算問題が減少し、思考力を要する問題が増加した。そのため、難易度と平均点は昨年度と同程度であった。受験者への負担が大きく、やや難しい内容であった。
(7) 得点のちらばり	4	平均点は54.79点（昨年度54.67点）、標準偏差22.59（昨年度20.81）であった。適度に広がりを持った正規分布をしており、得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	高等学校学習指導要領に沿って出題されており、出題範囲のバランスや出題内容、難易度にも配慮がなされていた。見慣れないグラフや図表を読み取って判断する思考力を要する問題があったが、解きやすくする工夫がされており、高等学校教育現場の関係者の意見や要望に配慮がなされた出題であった。総合的に評価すると大学入試センター試験問題として適切であったと考える。

科目名	生物基礎
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に基づく出題であった。
(2) 思考力	4	実験や示されたグラフ、条件から考察させるなど、生物の知識を基にしながら思考力や応用力を問う設問が含まれていた。
(3) 出題内容	4	教科書に記載されている内容に準じた問題が多く、特定の分野・領域や特定の教科書に偏ってはいなかった。また、教科書の全分野からバランス良く出題されていた。
(4) 問題構成	3	第1問の問4のように単一の語句で配点される部分と複数の語句で完答となる部分が混在する問題を含んでいたが、設問数、配点はおおむね適切である。設問形式については、文章選択が減少し、語句を問う問題が増加した。組合せの問題が多く、3問完答などあって単純な一問一答形式ではなかった。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適切である。
(6) 難易度	3	知識を問う問題が組合せ選択になっている問題が多く、より正確な知識が要求された。発展的な問題は少ないが、思考力、応用力を問う問題も含まれ、難易度はおおむね適正である。
(7) 得点のちらばり	4	標準偏差から見ても、得点のちらばりは適正であると考えられる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	高等学校学習指導要領に準じた内容から偏りなく出題されていた。知識はもちろんのこと、知識を基にした思考力や応用力を問う問題もバランス良く出題され、受験者の高等学校段階の学習の到達度を判定する試験としては適切であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	3	第1問Bで「生物基礎」の内容と重複する発展的な出題がなされたが、その他は指導要領の内容に基づき、適切に出題されていた。
(2) 思考力	4	昨年度に比べて思考力・応用力等を問う問題の割合が減ったものの、問題量、難易度とも適正であった。ただし、選択問題は第6問の方がより思考力が必要で、所要時間に差が生じたと思われる。
(3) 出題内容	4	全ての教科書に記載されている基本的な内容で、各分野から満遍なく出題された。選択問題は必答問題で問うのに不足した知識や思考力を問えるよう工夫されていた。
(4) 問題構成	3	基本的知識を、組合せ選択で解答させる設問形式が増えた。配点では、第4問が4点問題と2点問題の難易度に余り差がない上に、3問完答で2点など、ややアンバランスに感じた。必答問題は5問ともA・B二部構成となっており、10問中で与えられたデータや実験結果を基に考察する問題が8問あった。問題を理解して、知識と結び付けながら科学的に考察し、解答を導くのに時間を要したと思われる。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語については適切である。ページ数・文章量は昨年度よりやや増加、図・表は減少したが、正解を導くのに必要かつ効果的なものであった。
(6) 難易度	4	組合せ選択で解答させる設問が多く、平均点が下がったため難化した印象があるが、問題の一つ一つは基本的知識や論理的思考を見る良問が多く、適正である。
(7) 得点のちらばり	4	昨年度よりも標準偏差が大きくなったことから適正である。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	昨年度は思考力を要求する問題が多く、60分間で解答することはやや厳しいと評価したが、今年度は知識を問う問題の割合が増え、改善された。また、正答率を抑えるため解答を組合せ選択にしたことで、中間的な評価がしづらくなった面もあるが、正答を得るためにはより幅広く正確な知識が必要となり、基礎的な学習の達成度を判定するための試験として適切なものとなった。

科目名	地学基礎
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に基づく「地学基礎」の範囲内から適切に出題されている。
(2) 思考力	4	図表や観察・実験を扱う基礎的な知識を基に、科学的な思考力応用力等を問う設問が適切に含まれている。
(3) 出題内容	3	特定の分野・領域や特定の教科書に偏っていない。各分野からバランス良く出題されているが、「環境・災害」からの出題は全て「災害」についてであったので、今後は「環境」と「災害」の両方に配慮した出題としていただけることを期待したい。
(4) 問題構成	4	試験問題の構成はおおむね適切である。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適切である。
(6) 難易度	2	一部難解な設問があり、基礎的な知識問題も減少したことから、全体として試験の難易度が高くなり、やや不適正であった。
(7) 得点のちらばり	2	標準偏差が理科①の科目で最も小さいことから得点のちらばりはやや不適正な試験であったと言わざると得ない。出題内容や問題構成などに工夫が必要である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	一部改善すべき点もあるが、全体としておおむね適切な試験である。 「地学基礎」の学習達成度を測るため、基礎知識・科学的な思考力・判断力・応用力を総合的に問う設問で構成されており大学入試センター試験の問題としておおむね適切であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されている。
(2) 思考力	4	問題文をよく読み込み、それから得た情報に科学的思考力を用いて解答する設問が昨年より目立った。教科書記載の幾つかの図表を組み合わせて解答を導き出す設問も見られた。
(3) 出題内容	3	「地学」の各分野からバランス良く出題されていた。数学や理科の他科目で求められる手法を用いた設問も見られた。教科書により扱い方の異なる事項に関する設問は出題の工夫を期待したい。
(4) 問題構成	3	選択問題の設定、選択肢の数等はおおむね適切であった。基本事項の確認問題は組合せが多くなっている。多くの問題でリード文・図表等が増えた上、受験者に思考力を求める問題が増えたので、それを踏まえた設問数に調整してほしい。
(5) 表現・用語	3	文章表現については教科書を基にしたもので適切であったが、教科書により取り扱い方が異なる用語を用いる設問もあった。図表に関しては教科書の図を基に思考力を使って選択する設問もあった。
(6) 難易度	2	基礎的事項を確認する設問が少なくなり、思考力、応用力を用いる設問が増えた。分野をまたがる設問、解答前にもう一段階を求める設問が目立った。以上のことにより難易度は高めであったといえる。
(7) 得点のちらばり	3	標準偏差から考えると得点のちらばりはおおむね適正である。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	3	総合的に評価すると、大学入試センター試験問題としておおむね適切である。しかしながら、高校での「地学」の授業の展開状態、履修者の状況、理科の他科目とのバランスなどを考えると、受験者に対して高度な学習の達成度を測る試験である。

科目名	英語（筆記）
-----	--------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されていた。
(2) 思考力	4	科目の特性や難易度、解答に要する時間等を踏まえ、思考力や応用力等を問う問題がバランス良く含まれていたと判断する。特に、第3問と第5問は、文脈の理解や行間を読むことが求められ、思考力を測るものとして適切であった。
(3) 出題内容	4	特定の分野・領域や特定の教科書に偏ることなく、幅広い分野から出題されていた。また、背景知識に左右されることのない公平な出題内容であった。
(4) 問題構成	4	設問数・配点・形式の全てにおいて適切であった。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。
(6) 難易度	4	問題の難易度は適正であった。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であり、選抜試験に資するものであった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	大学入試センター試験が、志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主な目的としていることから判断すると、全体として適切な試験であった。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	いずれの設問も、高等学校学習指導要領の「外国語」の範囲内での出題であり学習の成果を問うものとして、おおむね適切な出題であった。
(2) 思考力	4	聞き取った複数の情報を取捨選択し、視覚情報と組み合わせて正答に導くよう工夫されていた。実際のコミュニケーションの場面で必要な、言外に含まれる相手の意図を類推したり、聞き取った情報を頭の中で整理し、場面を絵として思い浮かべて思考する力などが問われており、良問だったと言える。
(3) 出題内容	4	内容としては、様々な場面で想定される、より現実に即した会話やモノログであった。ただし、中には受験者にとってなじみの薄い場面設定も見られた。
(4) 問題構成	4	高等学校段階の学習到達度を測る適切な問題構成であり、設問数、配点、設問形式ともに適切であった。
(5) 表現・用語	3	実際の会話を再現した authentic な表現が多用され、表現としては自然なものであるが、受験者の認知度はあまり高くないと思われるものもあり、実際の教育現場との間に隔たりがあるように感じる。
(6) 難易度	4	基礎力から応用力までを問いながらも、センター試験が目安とする6割に近い平均点で、全体的な難易度としては適切だった。
(7) 得点のちらばり	4	32点前後をピークとして、緩やかな放物線を描いており、高い英語力を持つ者が高得点できる、英語の聴解力を測る問題として適切だったと言える。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	知識・技能・思考力を問う、よく練られた良問が多かった。 より自然な、実際の会話に出てくるような表現が多用されており、受験者が近い将来経験するであろうコミュニケーションの場면을扱っているという点で好ましい傾向と言える。今後の教育現場では、教科書内容を踏まえつつ、実際のコミュニケーションの場面に応じた authentic な表現を取り入れ、情報を処理したり、話者の意図を類推する力を育てる必要性を強く感じる。

科目名	ドイツ語
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	3	準拠すべき基準がないため判断は難しいが、受験者を「高校で3年程度ドイツ語を継続して学んできた」とするならばおおむね適切であると考ええる。
(2) 思考力	4	熟読や、精読が求められる問題も多くみられた。
(3) 出題内容	4	日常に即したテーマが多い。
(4) 問題構成	4	純粋な知識を問う出題は少ない。
(5) 表現・用語	4	表現・用語は適切である。
(6) 難易度	4	学習者にとって難しい単語・表現が出題の核をなすことはなく、適正である。
(7) 得点のちらばり	3	母集団が少ないため、統計的に意味のある分布とは思われないが、おおむね妥当な範囲だと思われる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	細かい指摘は幾つかしたが、英語ではなくドイツ語で入試に挑戦する受験者にとって適切な出題であった。3年程度真面目に学習してきた受験者が正当に評価される出題であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	語彙、文法事項など高等学校で学習される範囲内であり、適切に出題されている。
(2) 思考力	4	既習の知識、経験を基礎に現実の課題（問題）に取り組むよう工夫された出題。
(3) 出題内容	4	中級、上級のフランス語を学んでいる生徒にとって適切であった。
(4) 問題構成	4	文法事項、発音、語彙、情報収集力など各分野からバランス良く出題されている。
(5) 表現・用語	4	フランス文の表現、用語、単語は適切であった。
(6) 難易度	4	難しすぎず、易しすぎず、適正であった。
(7) 得点のちらばり	4	適正であった。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	上記の点から難しすぎず、易しすぎずの出題で、受験者のフランス語力を適正に測れたものであったと考える。

科目名	中国語
-----	-----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	学習指導要領第2章第8節では、「その他の外国語」は「英語に関する各科目」に「準じて行うものとする。」とあり、明確な範囲が考えにくいですが、主要辞書の重要語等には配慮があり、適切な出題であった。
(2) 思考力	3	図を使った問題では中国語力そのものを使う思考力が問われる設問となっていないものがあるが、表を使った問題は工夫が見られる。会話や文章題の空欄補充等も文法や単語にこだわらず、会話や文の流れを捉えさせる問題となっていて思考力を問う問題も含まれていておおむね適切である。
(3) 出題内容	4	日本人学習者が理解すべきピンインの仕組み、発音分野を出題している。ピンインで示した会話文を使った問題も評価できる。
(4) 問題構成	4	発音・ピンインの理解・語句・表現・会話・図表の読み取り・長文読解の構成で、内容も特定の分野・内容に偏っておらず、適切である。 試験時間と問題数のバランスも適切である。
(5) 表現・用語	3	選択肢の中国語表現における語句や文法事項にもう少し多様さが欲しい。設問の仕方は適切であり、文章表現・用語の使用はおおむね適正である。
(6) 難易度	4	高校の学習状況が踏まえられ、問題の難易度は適切である。受験者の特性を鑑み今後も平均点にこだわらず、適正な難易度を保っていただきたい。
(7) 得点のちらばり	4	ここ数年受験者が増えており、適正なちらばりに近づいてきている。受験者の構成や科目の特性上、高得点者に偏りが見られるのはいたしかたない。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	高校の学習状況を考えて基礎的な学習の達成度も測れる問題の出題となってきている。受験者の特性や科目の特性に配慮がなされ、よく工夫しており、おおむね適切な作問がなされている。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	2	第1問と第2問の一部及び第6問は高等学校学習指導要領の範囲外からの出題である。
(2) 思考力	3	第1問と第2問に知識のみを問う問題がある。
(3) 出題内容	4	
(4) 問題構成	2	全て4点配点のため、前半部分の知識を問う問題の配点が高く、後半の長文問題等、思考力を問う問題の配点が低い。
(5) 表現・用語	3	第6問の問1の設問の仕方は分かりにくい。
(6) 難易度	3	第1問と第2問の一部、及び、第6問は難易度が高すぎる。第3問～第5問の難易度は適正である。
(7) 得点のちらばり	2	受験者数が少なく、また、特殊な受験者層という原因もあるであろうが、適正な分布であるとは言い難い。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	3	難易度が高い。高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒が6割程度正答できる問題の作成、及び、第1問や第2問の一部にあるような知識のみを問う問題ではなく、思考力・応用力を問う問題の作成を望む。